

熊本大学学術リポジトリ

Kumamoto University Repository System

Title	詩園：文苑
Author(s)	内田，夕闇
Citation	龍南會雜誌， 1 0 6： 3 5 - 3 6
Issue date	1904-05-25
Type	Departmental Bulletin Paper
URL	http://hdl.handle.net/2298/5693
Right	

詩



高きを見るは人の性^{さが}

仰げよさらば空遠く

天使が歌の諧^{わい}をのせて

ふれつくだけつさゝやぎつ

星鳴りやまめ樂所^{がくじょう}をば

されど小さき人の子は

下界の夢にあてがれて

幻影^{まぼろし}はこるていたらく

歌なき森の鳥のごと

とはに夕べのやみを見る

崇美の虹は高うして

けがれの波は地に迷ふ

高きを好む性^{さが}ならば

内 田 夕 闇

無像の翼かけりつゝ

枯れし生命^{いのち}の葉をすてよ

あゝ曉雲の匂ふとき

情^{なさけ}の日かげふるへ来て

詩園の花はかんばしく

燦たる光水にてり

とこしへ罪の淵を見ず

立ちてきかずや園遠く

四絃六絃十二絃

愛を歌うて高くひくゝ

みなぎりわたる樂^{がく}の音

野にまた川にわきかへる

文

苑

たとへばうれよ空のはて

十二の門の立つところ

聖なる歌をきく如く

遠音うしほの浪とわき

ひびきて花の精を呼ぶ

時^じ刻^{こく}の浪のきざみなき

こゝ常春の靈に入り

幾重かさなる花の扉^とを

ひらきつとちつ行き行けば

なほもたぬせぬ其の響

光の中にたゞよひし

詩園の侍者は小走りて

われらにかくる紫衣^{しえ}白衣^{びやくえ}

句ひこめたるうすものや

さては小さき銀の征矢

いざ野に山に森かげに

いみじく高くうたひ得し

詩歌^しの魂^{たま}をそとひめて

遠きおもひに憧れつ

生命の水におりたまひ

あゝ詩の傾に疑惑^{うたがひ}の

黒き潮はわかぬもの

わが世の影を顧みて

ふたゝび胸^{からたち}に枳^かの

しほれし花を問ふなかれ

自由^まなる心自由にして

こゝ靈の野べ詩の園に

藝術^{たぎ}の花を讀^よじつゝ

われらが歌をどこしへに

天の泉とひゞかしめよ